

新型インフルエンザ・はしか

2010年ころ、毒性の高い新型インフルエンザの発生が危惧されたことがありました。パンデミック(致死性の伝染力の強い感染症が世界中で流行すること)にならないように各医療機関には厳戒態勢が求められました。幸い毒性はあまり強くなく、予想された被害は出ることはありませんでした。

しかし、何時そのような事態になるか、予断は許しません。感染の予防のため、どのように対処したらよいか覚えておきましょう。

重篤な症状を呈する毒性の強い新型インフルエンザに海外で感染し日本に持ち込んだと考えられる場合、または国内でそれに感染したと思われる場合。ウィルスをばらまかないようにすることが大切です。

自分が毒性の強い新型インフルエンザにかかったと思われる場合、病院に行かず、まず保健所あるいは行きつけの医療機関に電話連絡し自宅で検査を受けます。決して自分で病院に行ったり外出してはいけません。病院に行く途中、及び病院で二次感染を引き起こす懸念があります。検査後、陽性であれば、隔離して緊急搬送され、それなりの設備のある病院で隔離・治療されます。

- × 自分で病院に行く、タクシーで病院に行く、自家用車で病院に行く。
- 保健所に連絡し、自宅で診察を受ける。決して外出してはいけません。

(2010年当時、連絡する医療機関は保健所が良いと指導されていましたが、それからしばらくたち、今後変わるかもしれません。特に指導がなければ、主治医がいればその医療機関に連絡、もしくは特定医療機関：大きな病院、が良いでしょう。)

今、はしか(麻疹)の流行が懸念され、上記に準じた対応を勧める報道もなされています。

最近流行の「はしか」について

麻疹(医学の教科書では「麻疹」という感染症名を使いますが、一般的には「はしか」と呼ばれています。同じ感染症です。)とは、麻疹ウィルスの感染によっておこる急性の感染症です。麻疹ウィルスに感染すると、約10日~12日間の潜伏期を経て、発熱、咳、鼻汁などの風邪のような症状、目やにや目の充血に続き、39℃以上の高熱と全身に発疹が広がります。

かつてはすべての子供が感染しましたが、日本ではワクチンが広く行われるようになり発症する人は大きく減少しました。しかし、最近では免疫を持たない人も増え、海外からの旅行者によってウィルスが持ち込まれ散発的に流行します。

感染した場合は95%が発症し、特効薬はなく、解熱剤や咳止めなど、症状を抑える治療(対症療法)を行うこととなります。予防はワクチンが効果的です。

感染経路は主として**飛沫感染**であり、感染者の席・くしゃみの直接のしぶき（飛沫）を免疫のない人が吸い込んで感染します。1～1.5mの距離であれば、直接呼吸器に侵入します。

また締め切った空間では、乾燥したしぶきが細かい粒とない空气中を漂い、免疫がない人が吸い込んで感染します。**空気感染**

その他感染者の席・くしゃみの飛沫に触れ、口に運ぶことにより**接触感染**もします。

2019.2.末